

富山湾の深海生物

布 村 昇

富山湾は相模湾、駿河湾とならんでわが国では、最も深い湾の一つです。しかも富山湾は急に深くなっているの、岸近くまで深い海がせまっています。深海の生物にお目にかかる機会が多い所です。また、富山では深海の生物を食べる習慣が発達しているので、おなじみのものも多いと思います。

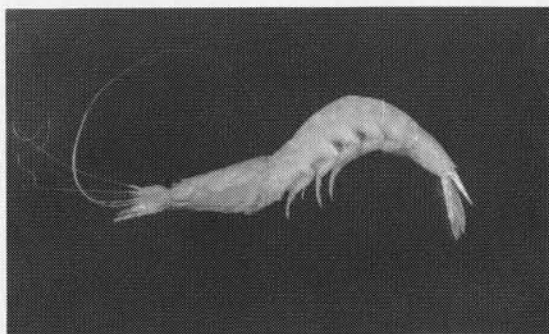
富山湾の生き物の特徴を述べる前に、日本海全体の特徴をお話なくてはなりません。富山湾も日本海の一部だからです。日本海は日本列島とアジア大陸にはさまれた内海で、その歴史は太平洋などと比べるとたいへん新しく、今から1500万年

前にできたといわれています。しかも今から1万年前まで続いた氷河時代には海の面が下がり、海峡がほぼ干上がり、日本海は淡水の湖になったか、または内湾の入り江のような状態になったのではないかとされています。そして日本海の南半分の表面には対馬暖流が流れ、暖かい海の生物が卓越しますが、300m以深の深海にはほとんど0℃の「日本海固有冷水塊（にほんかいこゆうれいすいかい）」とよばれる冷たい水のかたまりがあり、寒流系の生物が多いのが特徴です。また、日本海の最も深い所は3500m余りですが、太平洋との間の海峡の深さは最深部でせいぜい140mです。そこで深海部の冷たい水がこの浅い海峡にはさまれて太平洋の深海部との水の行き来がほとんど無いのです。

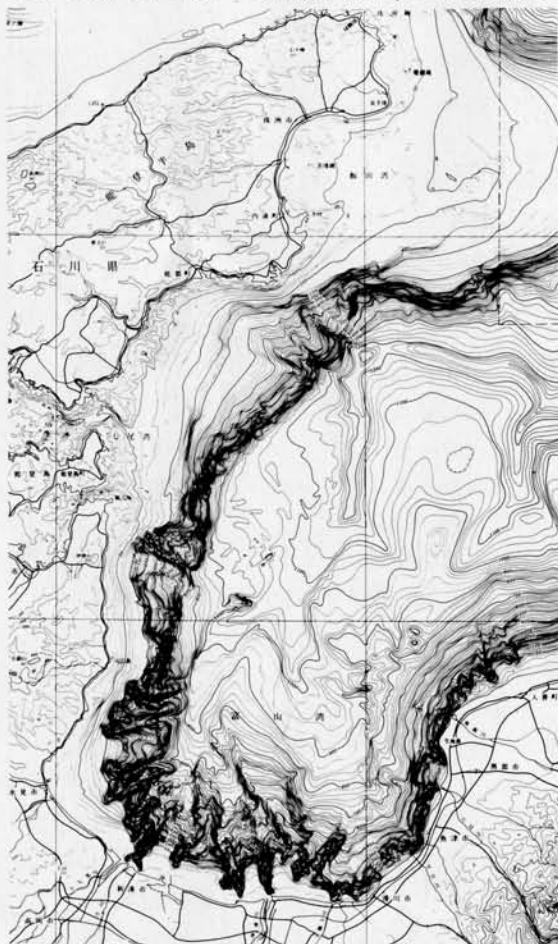
それではここで、富山湾の深海にすむ特徴のある生き物のいくつかをご紹介します。

シラエビ

庄川、神通川、常願寺川、早月川の沖合にいがめとよばれる海底の谷がありますが、ここに、シラエビがすんでいます。地元富山湾でシロエビ、ベッコウエビ、ヒラタエビなどと呼ばれるこのエビはかなりたくさんの量が取れますが、世界中で漁をするくらいたくさんとれるのは富山湾の「あいがめ」だけです。



シラエビ



富山湾の地形

(海上保安庁水路部、「富山湾付近海底地形図」(1988)の一部)

ホッコクアカエビ

アマエビの名前で親しまれている「ホッコクアカエビ」は北極を中心とした世界中の冷たい海にすんでいます。日本海のように南にすんでいるのは例がありません。氷河時代にはずっと南にもすんでいたのが、現在のように暖かくなるにつれ北方へ退却したのに、日本海には冷たい水があるのでこんなに南にもすんでいるのではないかと考えられています。



ホッコクアカエビ

ベニズワイガニ

500m～3000mの深みにいるこのカニは第2次世界大戦中にはじめて漁が始まったものです。メスは2年にわたって卵をだくので、資源を保護するため、メスはとってはいけないことになっています。

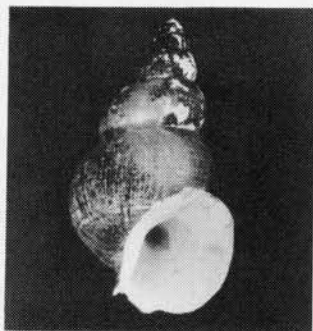


ベニズワイガニ

オオエッチュウバイ

500～1500mの深みにすんでいるバイで特別味がいいので有名です。特産の「カガバイ」や「ツ

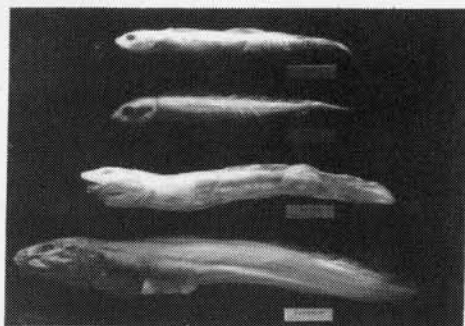
バイ」、「エゾボラモドキ」などととも、富山湾といえばバイ類の名産地として有名です。またオオエッチュウバイはベニズワイガニなどととも日本海で進化した生き物といえる代表です。



オオエッチュウバイ

ゲンゲ類

ゲンゲはゲンゲ汁として有名ですが、太平洋の方ではあまり見られません。もともと浅い海の魚であると考えられているのですが、日本海ではライバルの深海魚が少なかったためか、大いにさかえています。富山湾の深海魚としては他にスケトウダラ、アカガレイ、クサウオ類などが有名です。



ゲンゲ類

生物のほか、富山湾や日本海では、この温度差を利用して温度差発電が計画されており、また、深海から冷たい水を汲みあげ、冷水系の生物の養殖や浅い海の生き物の栄養分を補給することなどが考えられています。富山湾の深海の生き物も富山湾の深海そのものもこれからますます私たちに深くかわっていくことでしょう。

(ぬのむら のはる 無脊椎動物担当)